

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社



7つのこだわり

Vision
目指す姿

地域を代表する会社

mission
存在理由

「運ぶ」を支え地域社会を笑顔にする



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする。

地域を代表する会社であるために。

原点

1946年、水戸市柵町の水産加工会社の一角で始まった4人の事業。その会社は、1950年に「茨城いすゞ自動車」として新たな一歩を踏み出しました。

戦後のめまぐるしい時代の中、たった4人で始めた会社も今では400人と成長しています。

2021年、自動車業界は100年に一度の変革期を迎え、再び大きなうねりの中にいます。

設立から70年。

「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする
地域を代表する会社であるために。

茨城いすゞは今一度、初心に立ち返ります。

「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする。

地域を代表する会社であるために。

このビジョンとミッションを達成し、
地域社会を笑顔にするために、私たちに必要なこと。

それは、私たち個々が「**プロ**」であり続けること。
地域を代表する「**プロ**」集団であるために、
一人一人が「**ステップアップ**」し続けること。

初めからできる人はいないし、完成されている人はいない。
だからこそ、常に先を目指し続ける人でいよう。
「**ステップアップ**」し続けるために、歩みは止めない。
悩むなら、まず「**行動**」しよう。

お客様、同僚、社会に価値を残すためには「**行動**」が全てだ。
うまくいくことばかりじゃない。
時に悩むことも、迷うこともあるだろう。

そんな時は、自ら「**たのし**」もう。
「どうせ」を「どうしたら」に変えるだけでいい。
それだけで、はじめの一步が踏み出せる。

楽ではない、大変なことや苦しいことを抜けた先に、
きっと本当の「**愉しさ**」がある。

私たちが掲げる目標は大きい。
だれが?どうやって?なんのために?
一人ではくじけそうになることも、力を合わせれば
成し遂げることができるはず。

それぞれの色を認めあい、みんなの力を最大限に発揮する
「**協和**」と、一人一人が、未来の自分に誇れる「**誠実**」さがあれば、
未来は今よりもっと良くなる。

やり抜けば、きっとできるよ。私たちの「**目的**」である
『「**運ぶ**」を支え**地域社会を笑顔にする**』こと。
そして、いつまでも『**地域を代表する会社**』であることも。

7つのこだわり

目的志向

13

プロ意識

17

ステップアップ

25

行動

29

たのしむ

37

協和

43

誠実

49

目的志向

目的から考え、進んでいこう

目的に立ち返る

私たちの事業の目的は、社会や顧客、同僚・・・
「関わる人を豊かにすること」。

「昔こうだったから」「いつもこうだから」
そんな過去や習慣に囚われていませんか？
「とりあえず自分のところだけ」なんて、
作業になっていませんか？

あなたの仕事は、
誰かの「豊かさ」をつくるひとつのピース。
それは自分の幸せにもつながっています。

その仕事の意味や目的に立ち返り、
「なぜ」やるのか、「誰の」ためなのか、「どう」やるのか・・・
自ら考え、行動しよう！



プロ意識

プロとして心を尽くす

当たり前をやる

私たちはプロフェッショナル。

私たちが求められることも、
私たちが追求するのもプロの仕事。

あいさつ、ルールを守る、電話対応。
今、プロとしての仕事ができますか？

何事も基礎が大切。
小さなことからコツコツと、当たり前をやっていこう！





プロ意識

心を尽くす

「できません」「分かりません」だけ伝えて、諦めていませんか？

ドキッとしたあなた。今がチャンス。
「どうしたらできるか？」
そんな風に考え方を変えてみませんか。

プロはいつだって、
「誰か」のために、「何か」のためにひたむき。

壁はあるかもしれない、
人と意見がぶつかることもあるかもしれない。

それでも、自分の役割に、目標に向かって
一つひとつを丁寧に、真心をもって取り組む。

私たちは、茨城いすゞのプロフェッショナル。

「自分」は変えられる!

「あの人が悪い」「環境が悪い」と
人や環境のせいにいませんか?

「あの人がやってくれる」「自分には関係ない」と、
他人ゴトにいませんか?

誰だって、自分以外の人や環境を変えることは難しい。
でも、「自分」は変えられる。

問題や課題に立ち向かう時、まずは自分の言動を振り返り、
自分でできること考え、やり抜こう!



ステップアップ

「成長したね」「良くなったね」と言われよう



ステップアップ

昨日の自分を越えていこう

今、自動車業界は、100年に一度の変革期。
これから先も、技術は常に変化し、
より一層求められる知識も増えていく。

歩くペースも、好き嫌いも、
生まれ育った環境もみんな違うから、
同じ目標でなくて大丈夫。

自分の中で目標を持ち、
常に謙虚に学び、
取り入れ、
変化して、
昨日の自分を越えていこう。

行動

良くなるために、やらないより行動してみよう

評論家ではなく行動家

私たちの仕事は、
失敗を責めたり、批評したりすることじゃない。
私たちは評論家じゃなく、何度でも立ち上がる行動家だ。

あなたのこれまでの振り返ってみてほしい。
行動した後悔より、行動しなかった後悔の方が
深く残っていないか。

関わる人を「豊か」にするために、
何もせずにいて失敗しないより、
行動して失敗したことの方を称えるような心構えでいよう。
そして、今できること、迷っていることは、
思い切って行動に移してみよう！





行動

段取り八分仕事二分

準備運動なしで走り出すと、思わぬケガをすることもある。

それは仕事も同じで、どんな仕事も事前の準備が大切。
実際の作業を想像し、必要な道具や工数を考えて、
事前に準備をしておけば、
自ずと段取りは整っているもの。

あとは、あなたの技術・周りとのチームワークで
一つの仕事が形になる。

あらゆるパターンを想定して、
成功する確率を1%でもあげよう！

行動

歩みを止めない

壁にぶつかった時、
誰かとうまくいかなかった時、
悔しくて、情けなくて、
何もかも嫌になってしまう時があるかもしれない。

でも、そこで立ち止まるのか？
ひと呼吸置いて、考えてほしい。
どれだけ学んでも、考えても、
行動しなければ何も変わらない。

ヒトの進化も、物を作り、火を使う、
そんな行動から始まっている。

私たちの仕事は誰かの「安全安心」をつくる、
縁の下の力持ち。
だから、何事も失敗したままにはしない。
同じ失敗は繰り返さないように、
結果を分析して、また一歩進もう！



たのしむ

やるならたのしもう!

たのしむ

自分でたのしくする

仕事はたのしいことばかりじゃない。
大変なこと、困難なこと、悩むこともたくさんある。

でも、人生の時間は有限だ。
せっきくの人生なら、自ら「たのし」もう！

「どうせ」を「どうしたら」に変えて、
「自分」がたのしむために、何ができるか、
「自分」で考えて行動しよう！

楽ではない、大変なことや苦しいことを抜けた先に、
きっと本当の「愉しさ」がある。





たのしむ

より良くするために前向きに

苦しい時、悲しい時、
思わず、ため息がこぼれる時もある。

思い切り悩み悔やんだら、
次はぐっと力を込めて、顔を上げてみよう。

大丈夫。茨城いすゞには、たくさんの仲間がいる。

苦しいなら、助け合おう。
困ったら、知恵を出し合おう。

一人ではくじけそうになることも、
力を合わせれば成し遂げることができるはず。

前を向いて、何度でも挑んでいこう。

協和

認め合い、大きな力を生み出そう

協和

十人十色

生まれた場所や育った環境が違えば考え方も違うもの。
家族でも、兄弟姉妹でも同じ人はいないし、
誰だって、必ず長所と短所がある。

こうして今、あなたの横にいる人も、
奇跡的な確率で出会った仲間。
見た目や噂で判断しないで、
どこか一つでも良いところを見つけてみよう。

細かく口うるさい人は仕事が丁寧かもしれないし、
おしゃべりが好きな人は寂しがり屋かもしれない。
ペットが待ち受けの人は、動物好きの優しい人かもしれない。

そうして、ほんのちょっと視点を変えれば
その人の色が見えてくる。
それぞれの色を認めあう。それが茨城いすゞのカラーだ。





協和

共存共栄

設立から70年。

茨城いすゞが、ここまで来ることができたのは、
決して経営陣だけの力じゃない。

地域、パートナー企業、社員、社員の家族・・・
関わってきた全てのヒト・モノ・コトでできている。

こうして今ここに立つあなたも、
決して一人で生きてきたわけじゃない。
顧客、取引先、先輩、同僚、後輩、家族、恩師・・・
きっと多くの顔が浮かぶはず。

茨城いすゞの中だけでも、
本当にたくさんの仕事があって、役割があって、
会社全体が成り立っている。

自分だけじゃない、周りの人も良くなることを考え、
共に目標に向かって行こう！

誠実

未来の自分に誇れる今日を

誠実

未来の自分に誇れる今日を

5年後、10年後、30年後、

未来の自分はどうありたい？

たった一度の人生。

会社のためじゃない、自分のために。

未来の自分に誇れる今日を送ろう。



未来へ

茨城いすゞが走り出して70年。

まだ、ほくらは旅の途中。

困ったとき、

迷ったとき、

きっと、この本が

ほくらのコンパスになる。

いつまでも

どこまでも

ともに、走ろう。

今を生きるほくらがつくるのは、
次の世代につなぐ歴史の1ページだ。

